

(様式1)

## 令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第四吾嬬小学校
校長名	清水 雅也

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p>★各学年・全教科標準スコア50以上を目標としてきた。<u>4・6年を除き目標を達成</u>した。</p> <p>★標準スコア経年変化の分析</p> <p>【国語】2・3・5年は55～57ポイントで良好。</p> <p>【社会】5年は55.9を達成。</p> <p>【算数】6年以外は50以上を維持。良好。</p> <p>【理科】5年は49.7から55.6へ上昇。</p> <p>【2・3・5年】 全教科で55～57ポイントを達成。</p>	<p>★本年度標準スコアの分析</p> <p>【国語】4・6年は前年度比-2ポイント。40台半ばと伸び悩み。</p> <p>【社会】4・6年は46～47ポイントと伸び悩み。</p> <p>【算数】6年生は47.6から49.3へ上昇したが、標準スコアに達せず。</p> <p>【理科】4・6年は46～49と伸び悩み</p> <p>【英語】44.7と伸び悩み。</p> <p>【6年】標準スコア50以上なし。算数のみ昨年度に比べて上昇しているが、基礎学力・学習習慣等に改善点が多い。</p>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<p>◇「<u>まちがえをやりなおす</u>」項目の肯定率が高い学年(2・3・5年生)は、各教科の正答率も高い傾向にある。間違い直しに加えて、引き続き「<u>ふり返り・復習</u>」の習慣化も図っていく。</p>	<p>◇「<u>ノートのとりかた</u>」、「<u>不思議だと思ったことを調べる</u>」の肯定率が低い傾向にある学年は、正答率が低い。丁寧なノート指導や調べ学習の習慣化等を通じた授業改善を進めていく必要がある。</p>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>◇「<u>宿題の提出</u>」および「<u>まちがいなおし</u>」を徹底した学年は、各教科の正答率が高い。</p> <p>◇<u>生活・学習規律が徹底</u>されている学年、<u>授業が好き等知的な好奇心が高い</u>学年は、正答率が非常に高い。2・3・5年は、その傾向が顕著である。</p> <p>◇ふり返り期間に<u>学習問題データベース(理科・社会)</u>を活用したことにより、学習内容の定着が図れた学年があった。区調査における正答率も向上した。</p>	<p>◇生活・学習規律の徹底が図れなかった学年は、正答率が低い傾向にあった。年度初めからの指導により、改善の傾向が認められる。</p> <p>◇<u>ふり返り期間の学習状況の確認が不十分</u>な学年があった。学力向上委員会の組織力を強化し、全校での取り組みを再度徹底する。</p>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

#### ①学習の振りかえりを徹底する。

- ◇一単位時間で何をどのように学び、理解したのかを言語化する。これにより、自らの学びの過程や質、課題を明らかにし、次時以降の学習の充実を図る。
- ◇ドリル・練習問題の個々の取り組み状況を把握し、理解が不十分である事項（わからない問題）のやり直しを徹底する。学習支援員によるサポートや、放課後の補習を有効活用する。
- ◇ふりかえりシート、学習問題データベース等を日常的・効果的に使用し、学習事項の定着を図る。特に「ふり回り期間」には、児童の学習状況をより丁寧に確認する等、全校での取り組みを徹底する。

### (2) 個に応じた指導の充実

#### ①個別指導の充実を図る。

- ◇引き続き、算数を中心に学校支援指導員等を活用したDE層児童への個別支援・指導に力を入れる。各学年・教科とも、DE層児童数の割合を本年度比5～10%減を目指す。
- ◇低学年～中学年に対して学習支援員のサポート等の機会を増やし、学習支援および学習習慣の定着・確立（ふり回り、やり直し等の習慣化）を図る。

### (3) 考えを深め広げる

#### ①話し合い活動の充実を図る。

- ◇「対話・少人数協議・全体協議（学びあい・教えあい）」を通して自分の考えを広め深める学習活動を、全ての教科において実施する。また、話し合い活動にはタブレット端末（ロイロノート）も活用する。
- ◇1単位時間および1単元の学習を通して変容した自らの姿（何がわかったか。新たな視点・考え方を得られたか。）を見つめる「学習のまとめ・ふり回り」の時間を、十分に確保する。

#### ②表現力を高める。

- ◇適切な資料を読み解き、活用し、学んだことや考えたことを言語化（書く・話す）する学習を理科・社会を中心に展開し、事象を多面的に理解・表現する力を伸ばす。
- ◇全ての教科・特別活動の場面において、書く活動・発表する活動を積極的に取り入れる。文字言語に加え、図・絵などを用いて、自分の考え・意見を効果的に表現することを習慣化する。
- ◇発達段階に応じたノート指導を進める。
  - ・学習した事項を「正確に記録する」 →自らの「気づき・発見」のメモを加える →図表も駆使し「独自のスタイル」でまとめる。

## 3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

### (1) 目標

- ◇全学年・全教科とも、全国平均標準スコア「50ポイント以上」を目標とする。特に、現4年生のDE層の指導に注力する。